

第4次那珂市 地域福祉活動計画

概要版

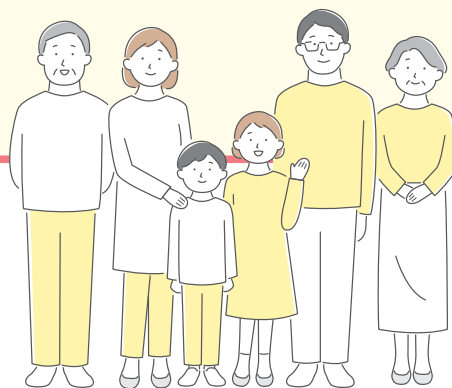
一人ひとりが 認め合い、
私たちがらしく暮らせる あったかなまち



社会福祉法人 那珂市社会福祉協議会

計画策定にあたって

「私たちらしい地域を 私たちの手で」



「安心して暮らし続けたい」という想いのために私たちは助け合い、力を合わせて前に進んできました。それによって安心して暮らせる仕組みが増え、暮らしはより豊かなものになってきました。

しかし、暮らし方への価値観は多様化し、それらすべてを制度や仕組みだけで支えていくことは難しくなっています。

そのため、同じ想いを持つかたとつながったり、異なる価値観を持つかたと想いを伝え合ったりすることで、私たち自身が主体的に活動にかかわり、お互いを認め合える「私たちらしい地域」をつくっていくことが求められています。

そこで、より私たちらしい地域を私たちの手でつくっていけるよう、第4次那珂市地域福祉活動計画を策定しました。

◆「誰一人取り残さない」社会の実現を目指して

第4次那珂市地域福祉活動計画では、SDGs[※]の視点を取り入れ、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指す地域づくりを進めていきます。

なお、本計画では、すべての基本計画および実施計画において、右記のSDGsGOALSの視点を取り入れ、計画を推進していきます。

※「SDGs（持続可能な開発目標）」

2030年までに国際社会が「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指して、経済・社会・環境を巡る広範な課題に統合的に取り組むものです。「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」などの17の目標と、それを達成するための169のターゲットを掲げています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





地域福祉活動計画とは

「地域福祉活動」とは、誰もが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていくことができるように、住民をはじめ、さまざまな分野のかたが参加して行う活動です。

そのため本計画は、どのような立場のかたでも、今ある身近な活動に計画の視点を「ちょっとだけ」加えることで、誰もが暮らしやすい地域づくりを進めるものとなっています。



【計画のねらい】

- ・住民や事業者・関係者など、どんな立場のかたでも取り組むことのできる計画にしています
- ・共に活動することで、お互いの想いを理解し支え合える環境をつくっていきます
- ・身近な活動に当てはめて、私（たち）としてできる活動を通じてみんなが同じ目標に向かっていけるようにします

第3次計画（平成29年度～令和3年度）から 見えてきた課題



（1）一人ひとりの意見を丁寧に引き出す必要性

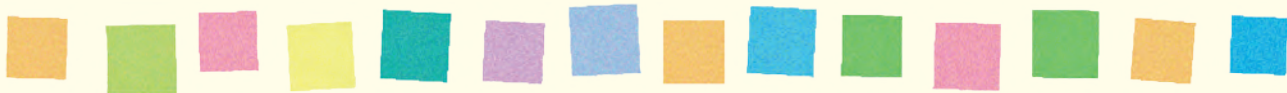
参加しやすく開かれた地域の活動や場づくりに取り組んできましたが、想いや意識のずれがあることが分かってきました。そこで、一人ひとりの想いや意識を丁寧に引き出しながら、場や活動をひろめていく必要があります。

（2）異なる意見を交わし合う必要性

当事者や関係機関のつながりを強化することで、より安心して暮らせる環境づくりを強化してきました。今後も、その方向性に変わりはありませんが、お互いの想いを理解することで、より良い環境へ発展させていく必要があります。

（3）異なる主体が目標を共有する必要性

様々な主体の連携を図る取り組みを進め、それによって複合的な課題解決や新たな活動などの展開を図ってきました。今後、より暮らしやすい地域づくりのために、異なる主体が目標を共有しそれぞれの活動を進めていくことが必要となります。



計画の構想

第4次那珂市地域福祉活動計画は令和4年度から令和8年度までの5か年計画です

※年次の進行管理を行うとともに、必要に応じて実施計画の見直しを行います

基本理念

一人ひとりが認め合い、私たちらしく暮らせるあったかなまち

情報も活動も価値観も多様化している現在、一人ひとりの「しあわせのカタチ」も多様化しています。そうした多様なしあわせづくりのためには、お互いの価値観を認め合い分かり合うことが重要であり、そのために想いを伝え合うことが必要となります。

ひとや地域が多様化するなか、お互いのしあわせづくりのために、自分の想いだけでなく相手を思いやれるしあわせづくりを進めていく必要があります。

一つの「カタチ」に合わせるのではなく、一人ひとりの想いや価値観に合わせた「私たちらしく暮らせるまち」を目指します。



基本理念を実現するための3つの目標

基本目標1 「一人ひとりの意見を丁寧に引き出します」

お互いの価値観を認め合える多様なしあわせづくりを進めるために、一人ひとりが相手に想いを伝えることが重要です。

そのために、自らの想いを伝えられる機会を設けたり、上手に伝えられないかたへ寄り添ったりすることで、一人ひとりの意見を丁寧に引き出します。

基本目標2 「異なる意見を交わし合う場をつくります」

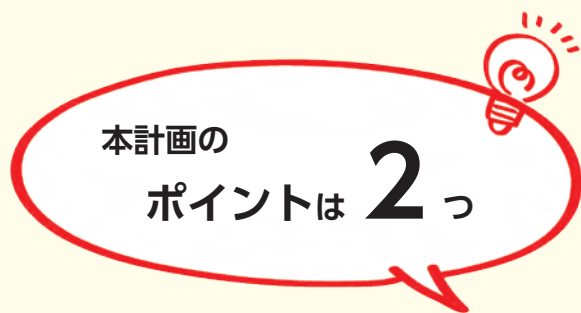
お互いの理解を深めるためには、自分の意見を伝えるだけでなく、異なる立場の意見に耳を傾けることが重要です。

そのために、異なる意見を交わし合う場をつくり対話の機会をひろめることで、お互いの理解を深めます。

基本目標3 「異なる主体が同じ方向を向けるようにします」

お互いのしあわせづくりのためには、自分だけでなく異なる主体どうしが目標を共有し、それぞれに活動することが重要です。

そのために、それぞれに共通する目的で目標を定め、取り組みを進めます。



(1) それぞれの立場や想いを「**対話**」を通じて、理解し合うことの重要性

(2) 「対話」を通じ、立場、役割、想いに「**共感**」することの重要性

これまでの取り組みから、周囲とつながりが持てず、社会的孤立状態にあるかた^{※1}の存在が明らかになってきています。

本計画では「対話」と「共感」をキーワードに人と人とのつながりづくりを丁寧に進めていきます。また自分の困っている状態を周囲に伝えられないかたの想いに寄り添えるよう、アウトリーチ^{※2}やICT^{※3}を活用した積極的な取り組みを進めていきます。



※1 「社会的孤立状態にあるかた」

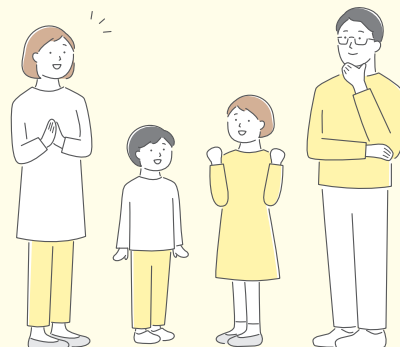
課題を抱えたことにより、社会との関係が希薄化している状態のかたを指します。ひきこもり、不登校やその保護者、生活困窮世帯の子ども、ヤングケアラー、介護者などが考えられます

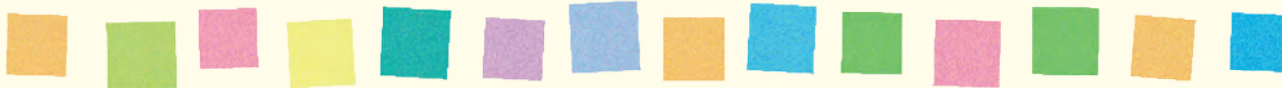
※2 「アウトリーチ」

支援が必要なかたに対し、支援者側が積極的に出向いていくことを指します

※3 「ICT」

通信技術を活用したコミュニケーションを指します





寄り添って
話を聴いてくれるかた

新しいカタチの
つながり方



つ な が る

「同じ立場の人どうしが つながる機会づくりを進めます」

人と人とのつながりをひろげていくためには、同じ立場の人どうしがつながり、想いを共有していくことが重要です。

そのために、自分の暮らす身近な地域や、同じ興味関心を持つ人どうしがつながるきっかけや場所をつくり、「ひとり」にならない関係づくりをひろめます。

1



同じ職種どうしの
つながり

基本計画の

取 り 組 む

3

「異なる立場の人どうしが 共に考え行動する取り組みを進めます」

より暮らしやすい地域をつくっていくためには、異なる立場の人どうしが、対話を通じて共に理解し合い、行動することが重要です。

そのために、同じ立場のつながりから異なる立場のつながりへ場をひろめ、お互いの想いに共感し、行動できる取り組みを進めます。



自分たちの
まちづくりビジョン



業種を越えた
福祉活動

多職種による
社会資源開発





他事業所と
協働する機会

ひろげる

「つながりを活かし 対話の場をひろげます」

想いを実現したり悩みを解決したりするためには、同じ立場の人どうしが意見を共有し、他のつながりへひろげていくことが重要です。

そのために、今あるつながりを活かしたり、新しいつながりをつくらせたりして対話の場をひろげ、一人ひとりの想いが実現できるきっかけをつくっていきます。



今ある団体どうしの
ネットワーキング



取り組みの成果を
伝える機会

2

4つの柱

4

学ぶ

「お互いの理解を深めるための 学びの場づくりを進めます」

様々な立場や考え方を持つ人どうしが、地域で共に支え合って暮らしていくためには、お互いの状況や置かれている環境を理解していくことが重要です。

そのために、地域に暮らす人の様々な状況を理解し合ったり、多様な対話の手法を試したりなど、積極的に話し合いが行える環境づくりを進めます。



企画や広報を
評価し合う勉強会



障がいについて
伝えてくれるかた



施設行事を通じた
世代間交流

地域福祉活動計画と社会福祉協議会



地域福祉活動計画は、一部の人や団体だけでなく、多くのかたがお互いに理解し、活動に参加することで計画の目的を達成することができます。

それらの活動を進められるように、社会福祉協議会（社協）が住民・関係者（団体）・行政などとの協働により計画を推進していきます。



(1) 「個別支援と地域づくりの包括化による地域福祉の深化」

～社会的孤立状態にあるかたへのアウトリーチと居場所づくり～（これまでの福祉の進化・深化）

社会的孤立状態にあるかたなど、声をあげられない（あげづらい）かたに対するアウトリーチを強化し、SNS やメールなど多様な形での社会参加が進められるよう、取り組みを強化していきます。

また、それらの取り組みを推進する上で多機関協働や福祉以外の施策とのつながりを積極的に展開できるよう、社協本来の機能である「中間支援」をより強化していきます。

- ①総合（包括的）相談支援機能の強化
- ②機能の整理
- ③地域づくり機能の強化
- ④居場所づくりと個別支援による社会参加の促進

(2) 「ICT や新しい視点による新時代の福祉活動の推進」

～新しい参加や就労・学びのカタチづくり～（新時代の福祉の創造）

ICT や新しい視点を取り入れ、活動への参加の方法や、現在課題を抱えながら生活しているかたたちの、新しい就労や学びの手法について検討を強化していきます。

また、活動の展開にあたっては、ファンドレイジング*などの手法を積極的に取り入れ、間接的な地域福祉活動の強化も図っていきます。

- ①伝え方（広報など）の見直し
- ②事業の方向性見直し・新規事業の検討・調整

※「ファンドレイジング」

主に民間非営利団体が、活動のための資金提供を個人、法人、政府などに呼びかける行為のことを指します

地域福祉推進の営業マンとして、「対話」を通じ

人や組織をつなぎ、「共感」に基づき行動する地域づくりを進めます

令和 4 年 3 月

企画・制作

那珂市地域福祉活動計画策定委員会
那珂市地域福祉活動計画ワーキング委員会

編集・発行

社会福祉法人 那珂市社会福祉協議会
茨城県那珂市瓜連 321（那珂市役所瓜連支所分庁舎内）
電 話：029-229-0309
F A X：029-296-1002
M a i l：shakyo@naka-shakyo.net

